

## 2022年5月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)



2022年4月13日

東・福

上場会社名 株式会社エムビーエス 上場取引所  
 コード番号 1401 URL <https://www.homemakeup.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山本 貴士  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画室長兼 (氏名) 栗山 征樹 (TEL) 0836-54-1414  
 管理部長  
 四半期報告書提出予定日 2022年4月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2022年5月期第3四半期の業績 (2021年6月1日~2022年2月28日)

## (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年5月期第3四半期	2,619	34.4	205	169.9	222	109.4	150	△8.3
2021年5月期第3四半期	1,948	△22.0	76	△67.8	106	△62.5	164	△12.7
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2022年5月期第3四半期	19.59		—					
2021年5月期第3四半期	21.28		21.28					

## (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年5月期第3四半期	3,490	2,813	80.6
2021年5月期	3,740	2,737	73.2

(参考) 自己資本 2022年5月期第3四半期 2,813百万円 2021年5月期 2,737百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年5月期	—	0.00	—	3.00	3.00
2022年5月期	—	0.00	—	—	—
2022年5月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 2022年5月期末の配当予想につきましては、現時点では業績の見通しが困難なため、公表しておりません。  
 業績予想の算定が可能となった時点で速やかに開示する予定であります。

## 3. 2022年5月期の業績予想 (2021年6月1日~2022年5月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,787	10.1	404	66.2	442	55.4	300	4.5	38.82

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料6頁「2. 四半期財務諸表及び主な注記(3) 四半期財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年5月期3Q	7,732,000株	2021年5月期	7,732,000株
2022年5月期3Q	72,000株	2021年5月期	一株
2022年5月期3Q	7,702,784株	2021年5月期3Q	7,731,333株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する前提に基づいたものであり、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等について、添付資料2頁「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期貸借対照表	3
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(会計方針の変更)	6
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	7
(収益認識関係)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種の進行や行動制限の緩和等により厳しい状況が徐々に緩和され、持ち直しの動きがみられましたが、新たなる変異株の流行やそれに対するまん延防止等重点措置の実施、資源価格の上昇、ウクライナをめぐる国際情勢の先行き等、依然として厳しい状況が続き先行き不透明な状況となっております。

当社が属する建設業界におきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、工事の一時中止や工事の延期、受注の遅れ等が見受けられましたが、公共投資並びに民間投資は底堅く推移いたしました。

しかしながら、施工を行う技術者不足が解消されていないことに加え、資材価格や労務費といった建設コストの高騰が工事収益を圧迫する等、引き続き厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社は、引き続き感染予防に組織的に取り組みつつ、既存店におけるパートナー（工務店等）との関係強化に取り組み、受注拡大を図って参りました。また、原価低減と経費削減、工事採算性を重視した受注方針の徹底、施工管理と品質・技術の向上に努めるとともに、人材採用及び育成にも積極的に取り組み、業容拡大や収益力の向上等も図って参りました。

これらにより、当第3四半期累計期間における売上高は、2,619,955千円（前年同期比34.4%増）、営業利益は、売上高の増加に伴う売上総利益の増加により205,386千円（前年同期比169.9%増）となりました。経常利益は、222,065千円（前年同期比109.4%増）、四半期純利益は、150,901千円（前年同期比8.3%減）となりました。

セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

#### (ホームメイキャップ事業)

ホームメイキャップ事業におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により工事の一時中止や工事の延期等の影響を受けたものの、一部大型改修工事が順調に進捗したことから、売上高は2,512,143千円（前年同期比38.6%増）となり、セグメント利益は351,530千円（前年同期比63.5%増）となりました。

#### (建築工事業)

建築工事業におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により工事の一時中断や工事の延期、受注の遅れや着工の後ろ倒し等の影響を受け、新築及び改修工事等が減少したため、売上高は105,815千円（前年同期比17.6%減）となり、セグメント損失は6,699千円（前年同期は10,087千円のセグメント利益）となりました。

#### (その他)

不動産売買取引を行う不動産事業とFC加盟店に対するコーティング材等の販売に関する事業等で構成されるその他の事業におきましては、材料販売等の減少により、売上高は1,996千円（前年同期比74.0%減）となり、セグメント利益は1,020千円（前年同期比66.1%減）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における資産の部は、前事業年度末に比べ250,224千円減少し、3,490,002千円となりました。これは主に、現金及び預金270,704千円の減少、未成工事支出金49,024千円の減少、仕掛販売用不動産100,006千円の増加等によるものであります。

負債の部は、前事業年度末に比べ326,511千円減少し、676,133千円となりました。これは主に、未払法人税等112,953千円の減少、支払手形85,507千円の減少、工事未払金55,524千円の減少等によるものであります。

純資産の部は、前事業年度末に比べ76,286千円増加し、2,813,869千円となりました。これは主に、利益剰余金127,705千円の増加、自己株式37,116千円の増加、その他有価証券評価差額金14,301千円の減少等によるものであります。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年5月期の業績予想につきましては、2022年1月12日公表の業績予想数値から変更はありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年5月31日)	当第3四半期会計期間 (2022年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,403,477	1,132,773
受取手形	99,540	—
電子記録債権	30,013	22,283
完成工事未収入金	692,850	—
受取手形、完成工事未収入金及び契約資産	—	696,540
売掛金	22,397	21,078
未成工事支出金	274,008	224,984
仕掛販売用不動産	18,551	118,557
原材料及び貯蔵品	10,133	13,916
その他	13,024	35,870
貸倒引当金	△13,126	△11,690
流動資産合計	2,550,871	2,254,314
固定資産		
有形固定資産		
土地	389,654	389,654
その他(純額)	90,462	127,888
有形固定資産合計	480,116	517,542
無形固定資産		
投資その他の資産	30,153	33,974
投資有価証券	311,791	291,213
その他	382,139	405,211
貸倒引当金	△14,845	△12,254
投資その他の資産合計	679,085	684,171
固定資産合計	1,189,356	1,235,688
資産合計	3,740,227	3,490,002
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形	335,904	250,397
工事未払金	295,346	239,821
買掛金	41,147	42,570
未払法人税等	112,953	—
完成工事補償引当金	28,743	34,778
その他	182,884	105,368
流動負債合計	996,979	672,936
固定負債		
資産除去債務	—	1,947
その他	5,665	1,249
固定負債合計	5,665	3,196
負債合計	1,002,644	676,133

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年5月31日)	当第3四半期会計期間 (2022年2月28日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	391,329	391,329
資本剰余金	400,096	400,096
利益剰余金	1,915,215	2,042,920
自己株式	—	△37,116
株主資本合計	2,706,641	2,797,229
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	30,941	16,639
評価・換算差額等合計	30,941	16,639
純資産合計	2,737,582	2,813,869
負債純資産合計	3,740,227	3,490,002

## (2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自2020年6月1日 至2021年2月28日)	当第3四半期累計期間 (自2021年6月1日 至2022年2月28日)
売上高	1,948,970	2,619,955
売上原価	1,349,523	1,880,595
売上総利益	599,447	739,359
販売費及び一般管理費	523,339	533,973
営業利益	76,107	205,386
営業外収益		
不動産賃貸収入	9,284	11,297
有価証券利息	10,276	10,921
売電収入	24,389	—
飲食事業収入	—	465
その他	3,565	3,822
営業外収益合計	47,516	26,506
営業外費用		
支払利息	764	79
貸倒引当金繰入額	—	1,808
支払手数料	778	1,260
売電費用	1,520	—
減価償却費	10,870	1,996
飲食事業費用	—	3,802
その他	3,657	880
営業外費用合計	17,591	9,827
経常利益	106,033	222,065
特別利益		
新株予約権戻入益	206	—
固定資産売却益	136,810	3,335
投資有価証券売却益	1,800	—
特別利益合計	138,816	3,335
特別損失		
固定資産除却損	—	0
特別損失合計	—	0
税引前四半期純利益	244,849	225,401
法人税、住民税及び事業税	91,670	69,891
法人税等調整額	△11,357	4,608
法人税等合計	80,312	74,500
四半期純利益	164,537	150,901

### (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2021年7月16日開催の取締役会決議に基づき、自己株式72,000株の取得を行っております。この結果、当第3四半期会計期間末において、自己株式が37,116千円増加しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、工事契約に係る収益認識に関して、従来は工事の進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準を、その他の工事については工事完成基準を適用しておりましたが、財又はサービスに対する支配が顧客に一定の期間にわたり移転する場合には、財又はサービスを顧客に移転する履行義務を充足するにつれて、一定の期間にわたり収益を認識する方法に変更しております。

なお、履行義務の充足に係る進捗度の見積りの方法は、各報告期間の期末日までに発生した工事原価が、予想される工事原価の合計に占める割合に基づいて算出しております。また、履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積ることができないが、当該履行義務を充足する際に発生する費用を回収することが見込まれる場合には、原価回収基準を適用しております。工期がごく短い工事については、一定の期間にわたり収益を認識せず、完全に履行義務を充足した時点で収益を認識しております。

また、材料販売に係る収益認識に関しても、収益認識に関する会計基準の適用指針第98項に定める代替的な取扱いを適用し、材料の国内の販売において、出荷時から当該材料の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は138,449千円増加し、売上原価も138,449千円増加しておりますが、営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益に与える影響はありません。また、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形」、「完成工事未収入金」は、第1四半期より「受取手形、完成工事未収入金及び契約資産」に含めて表示しております。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前事業年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。



(追加情報)

新型コロナウイルス感染拡大の影響による会計上の見積りについて、前事業年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載いたしました仮定に重要な変更はございません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 2020年6月1日 至 2021年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	ホームメイキャ ップ事業	建築工事業	小計		
売上高					
(1) 外部顧客に 対する売上高	1,812,935	128,347	1,941,283	7,687	1,948,970
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,812,935	128,347	1,941,283	7,687	1,948,970
セグメント利益	215,012	10,087	225,099	3,008	228,108

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、F C加盟店に対するコーティング材等の販売に関する事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	225,099
「その他」の区分の利益	3,008
全社費用(注)	△152,001
四半期損益計算書の営業利益	76,107

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第3四半期累計期間(自 2021年6月1日 至 2022年2月28日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	ホームメイキャ ップ事業	建築工事業	小計		
売上高					
(1) 外部顧客に 対する売上高	2,512,143	105,815	2,617,959	1,996	2,619,955
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,512,143	105,815	2,617,959	1,996	2,619,955
セグメント利益又は損失(△)	351,530	△6,699	344,830	1,020	345,850

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、F C加盟店に対するコーティング材等の販売に関する事業等を含んでおります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	344,830
「その他」の区分の利益	1,020
全社費用(注)	△140,464
四半期損益計算書の営業利益	205,386

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期累計期間の「ホームメイキャップ事業」の売上高は66,532千円増加、「建築工事業」の売上高は71,917千円増加しております。また、セグメント利益又は損失に与える影響はありません。

## 4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当第3四半期累計期間(自 2021年6月1日 至 2022年2月28日)

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	ホームメイキャ ップ事業	建築工事業	計		
ホームメイキャップ工事	2,196,793	—	2,196,793	—	2,196,793
足場工事	50,049	—	50,049	—	50,049
建築工事	—	105,815	105,815	—	105,815
材料販売	265,300	—	265,300	1,096	266,397
その他	—	—	—	900	900
顧客との契約から生じる収益	2,512,143	105,815	2,617,959	1,996	2,619,955
外部顧客への売上高	2,512,143	105,815	2,617,959	1,996	2,619,955

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、F C加盟店に対するコーティング材等の販売に関する事業等を含んでおります。